

2023年度第2四半期 決算補足資料

2023年11月14日



2023年度 第2四半期決算のポイント

(単位：百万円)

	2022年度	2023年度		対前年同期比	
	上期				上期
		1Q	2Q		
売上高	66,536	37,996	39,754	77,750	+11,214
営業利益	△1,198	227	374	601	+1,799
経常利益	△820	357	581	938	+1,758
当期純利益	△830	452	448	900	+1,730
売上重量*	71	81	85	83	+12

* 2018年度平均を100とした場合の指標

《全体感》

- 売上高： 受注量の回復及び円安の進行等により、売上高は前期比16.9%増。
売上重量は、半導体不足の緩和が進み各自動車メーカーの生産増を受け14.5%増。
- 営業利益： 中国市場において日系自動車メーカーの販売不振の影響があったが、グループ全体的に受注量が増加、またエネルギー費高騰分の価格交渉が一部進んだことも収益に寄与。
- 当期純利益： 円安進行による為替差益等の計上により増益。

業績予想修正について

■ 上期実績との乖離について

(単位：百万円)

	2023年度上期	
	10/25修正計画	実績
売上高	77,700	77,750
営業利益	600	601
経常利益	900	938
当期純利益	1,000	900

【当期純利益の差異要因】

10/25付け適時開示において、中国事業関連損失として160百万円の特別損失を見積もっていたが、主に事業用資産における将来の使用用途・回収見込みについて検討を重ねた結果、262百万円を追加の特別損失として計上(総額422百万円)した。→当期純利益のマイナス影響

また当該特別損失は、税務上損金として取り扱われなため、税効果会計に基づき繰延税金資産(法人税等調整額)を計上した。→当期純利益のプラス影響
上記により、当期純利益が減額となった。

■ 通期の業績予想について

(単位：百万円)

	2023年度通期	
	5/18 期初計画	10/25 修正計画
売上高	150,000	155,000
営業利益	2,200	2,400
経常利益	1,600	2,200
当期純利益	1,100	1,400

【増減要因】

売上高：

半導体影響の緩和が進み自動車メーカーの生産が好調であること、円安進行により想定為替レートを変更したこと等により上方修正

営業利益：

主に日本・北米セグメントの受注量回復及び収益性向上により期初計画を上回るが、一方で中国拠点において当初想定した下期以降の回復が難しい見込みであるため、アジアセグメントを大きく下方修正したことにより全体としては微増

経常利益・当期純利益：

円安進行による為替差益の増加等を反映

想定為替レート

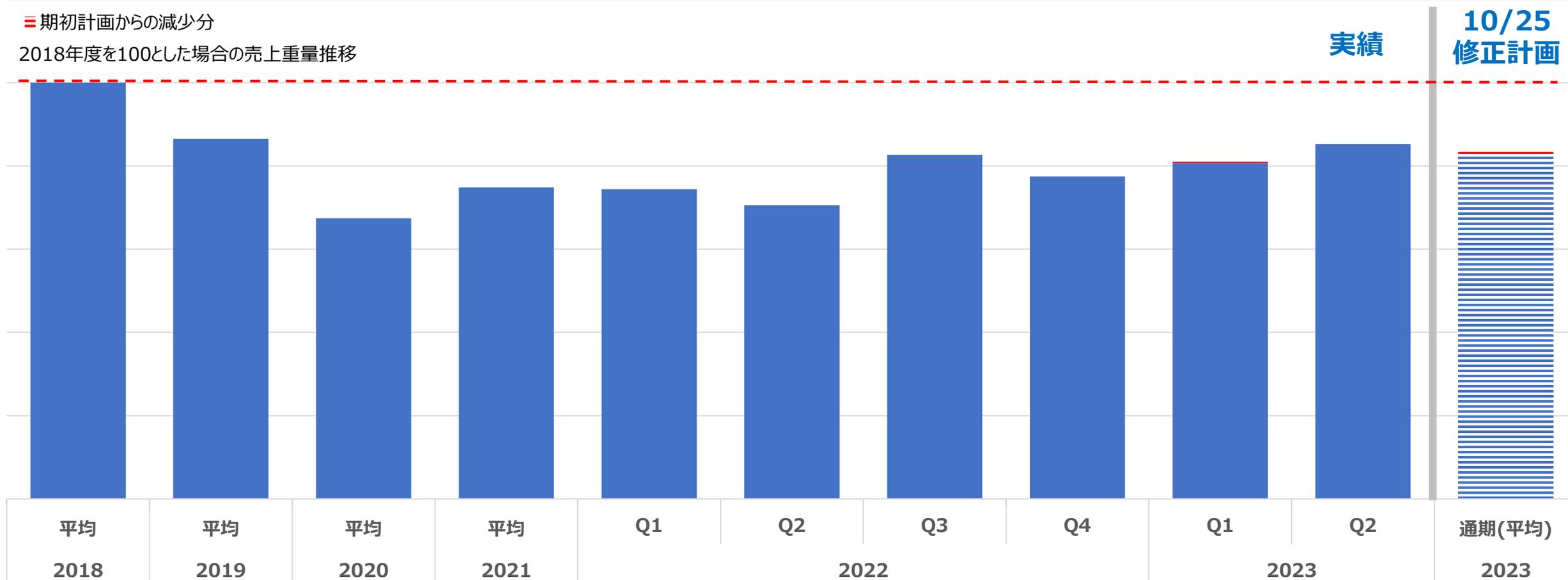
(期初計画⇒修正計画) 米ドル 130.0 ⇒ 140.0 人民元 19.0 ⇒ 20.0 インドルピー 1.60 ⇒ 1.70 2

売上重量推移

第1四半期に引き続き、受注好調により売上重量は増加傾向。
下期も日本・北米を中心に増加するが、中国の減少分を反映し、通期では5月期初計画とほぼ同水準の見込み。

≡ 期初計画からの減少分

2018年度を100とした場合の売上重量推移



ダイカスト事業

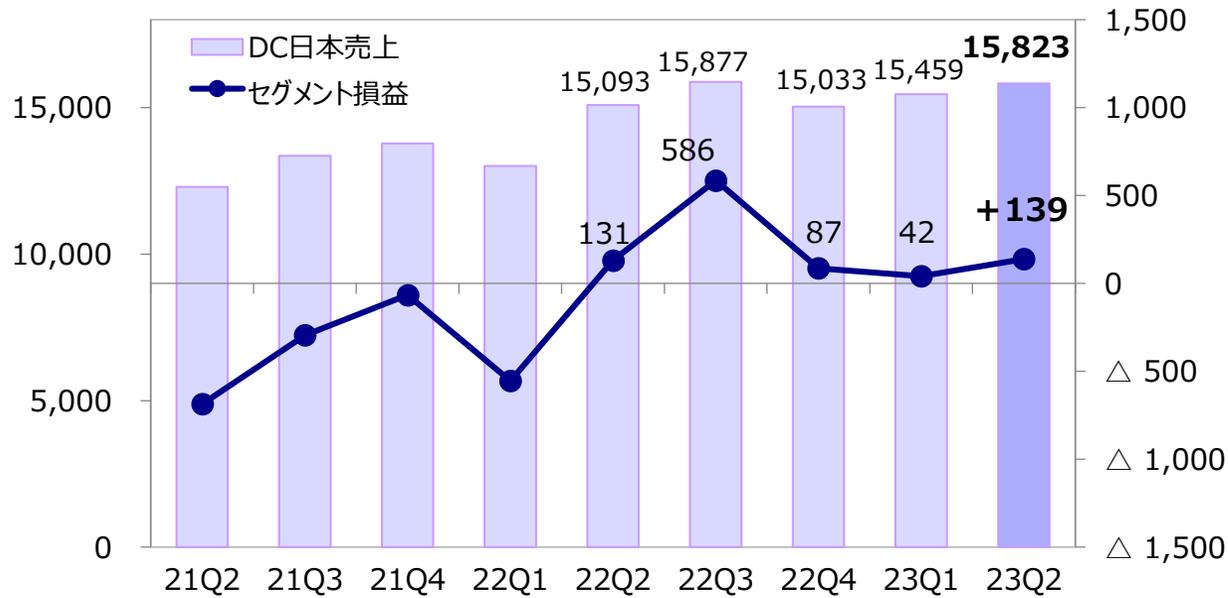
(単位：百万円)

		2022年度	2023年度		対前年同期比	2023年度通期		
		上期				上期	5/18 期初計画	10/25 修正計画
			1Q	2Q				
日本	売上高	28,109	15,459	15,823	31,282	+3,173	62,000	63,500
	セグメント 損益	△423	42	139	181	+604	650	1,000
北米	売上高	17,016	11,307	11,664	22,971	+5,955	41,000	45,000
	セグメント 損益	△713	405	288	693	+1,406	900	1,400
アジア	売上高	15,695	7,707	8,595	16,302	+607	34,700	33,600
	セグメント 損益	△ 250	△617	△371	△988	△738	50	△1,200

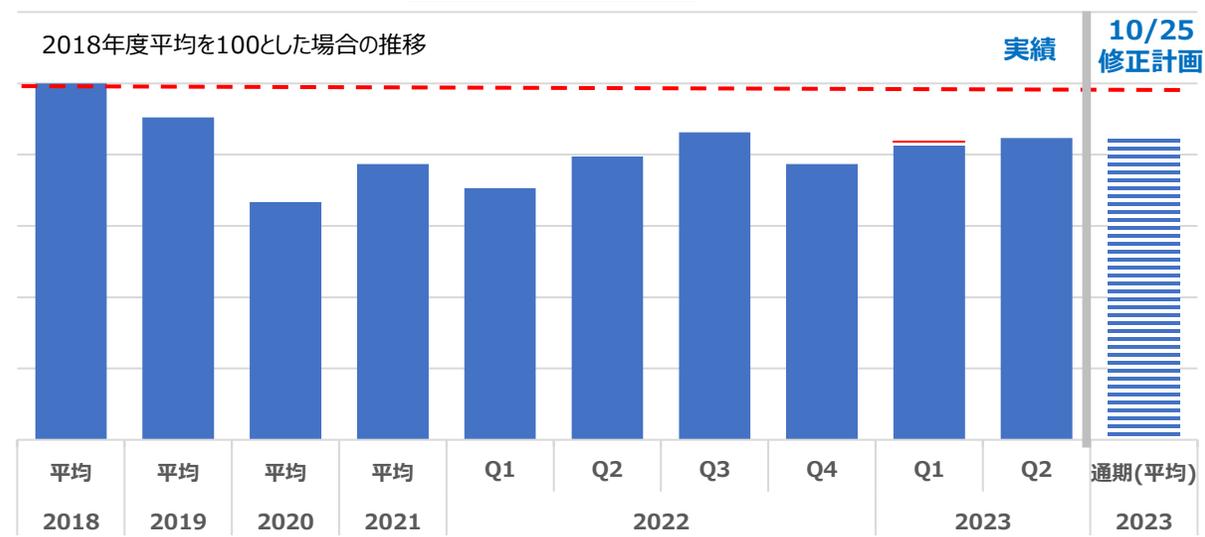
※ 北米セグメントのメキシコ工場及びアジアセグメントの中国2工場は12月決算となります。

ダイカスト日本

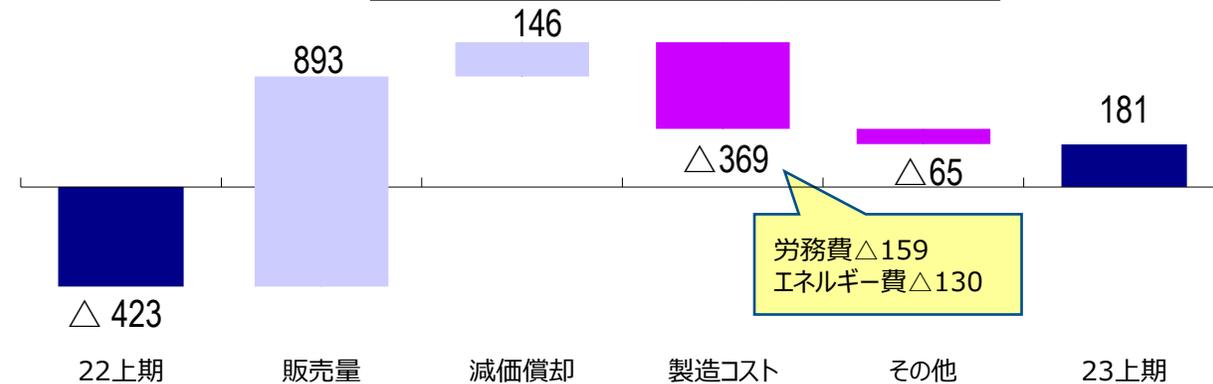
売上高/セグメント損益の推移 (単位:百万円)



売上重量の推移



セグメント損益増減要因 (単位:百万円)



《上期》

売上: 312億円 前年同期比+31億円 (+11.3%)

損益: 1.8億円 前年同期比+6億円 (黒字化)

《第2四半期》

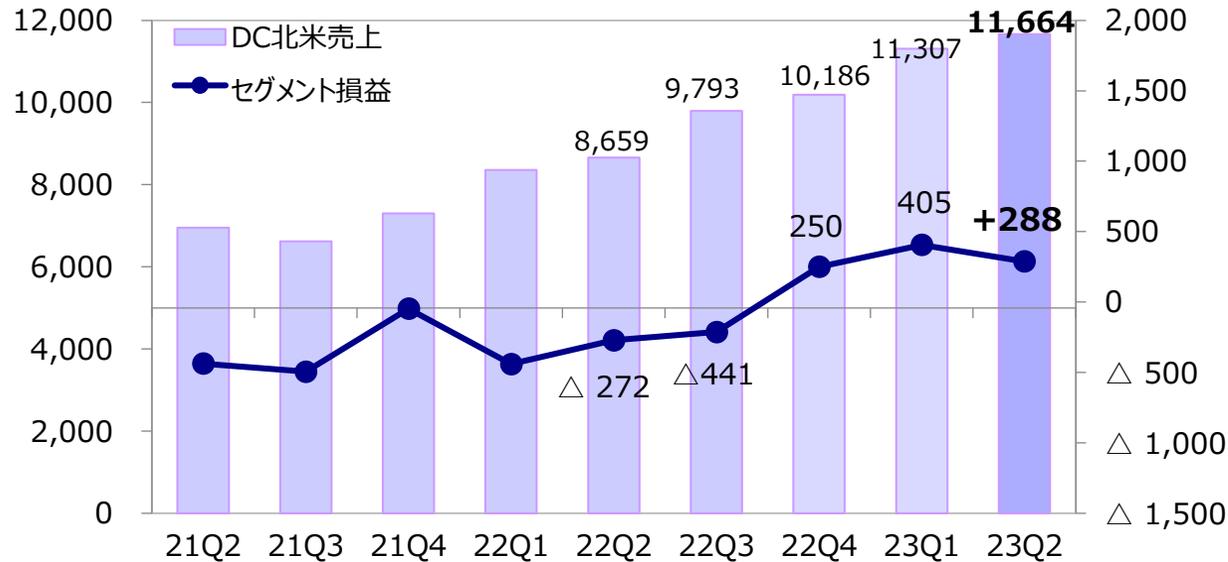
売上: 158億円 前年同四半期比+8億円 (+4.8%)

損益: 1.3億円 前年同四半期比+0億円 (+0.6%)

- エネルギー費, 労務費上昇等による製造コスト増はあったものの、受注量の回復が進み、エネルギー費価格交渉の進展もあり増益

ダイカスト北米

売上高/セグメント損益の推移 (単位:百万円)



売上重量の推移



《上期》

売上：229億円 前年同期比+59億円 (+34.9%)

損益：6.9億円 前年同期比+14億円 (黒字化)

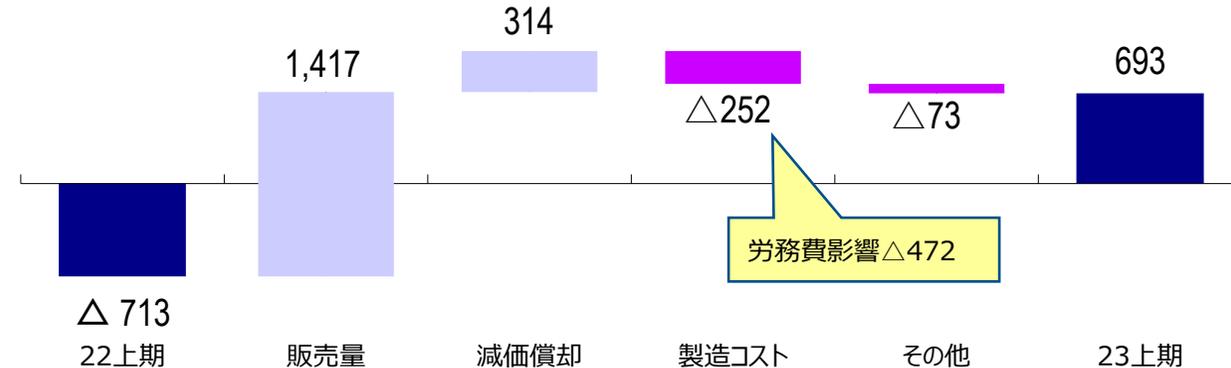
《第2四半期》

売上：116億円 前年同四半期比+30億円 (+34.7%)

損益：2.8億円 前年同四半期比+5億円 (黒字化)

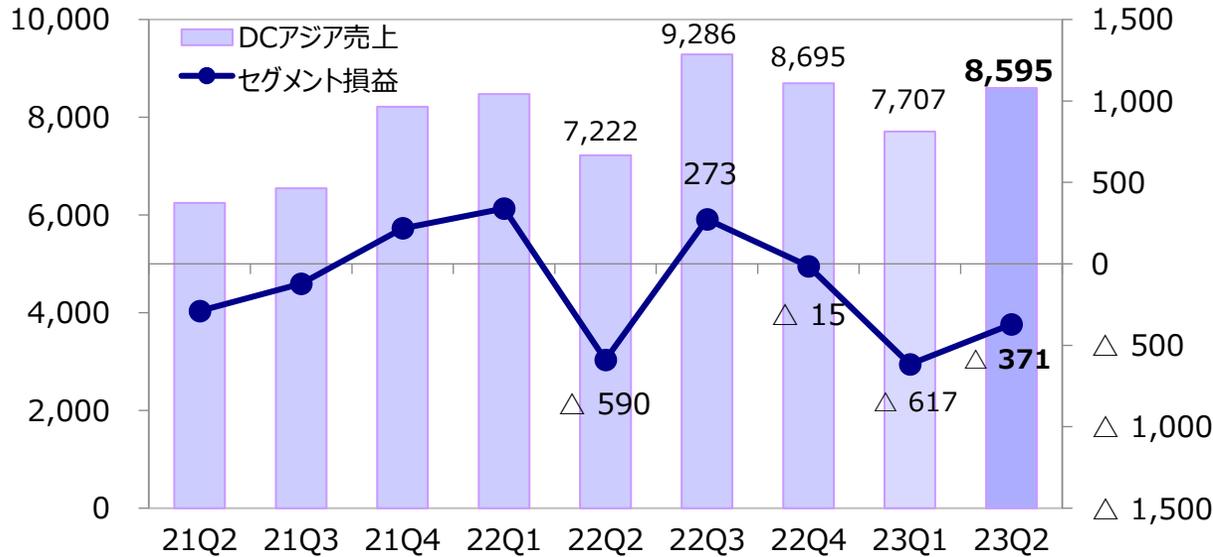
- 受注量の増加及び円安の進行もあり増収。労務費の上昇が引き続き収益を圧迫しているが、価格是正交渉の進展及び原価低減効果により米国工場も黒字化継続したことで増益に寄与

セグメント損益増減要因 (単位:百万円)

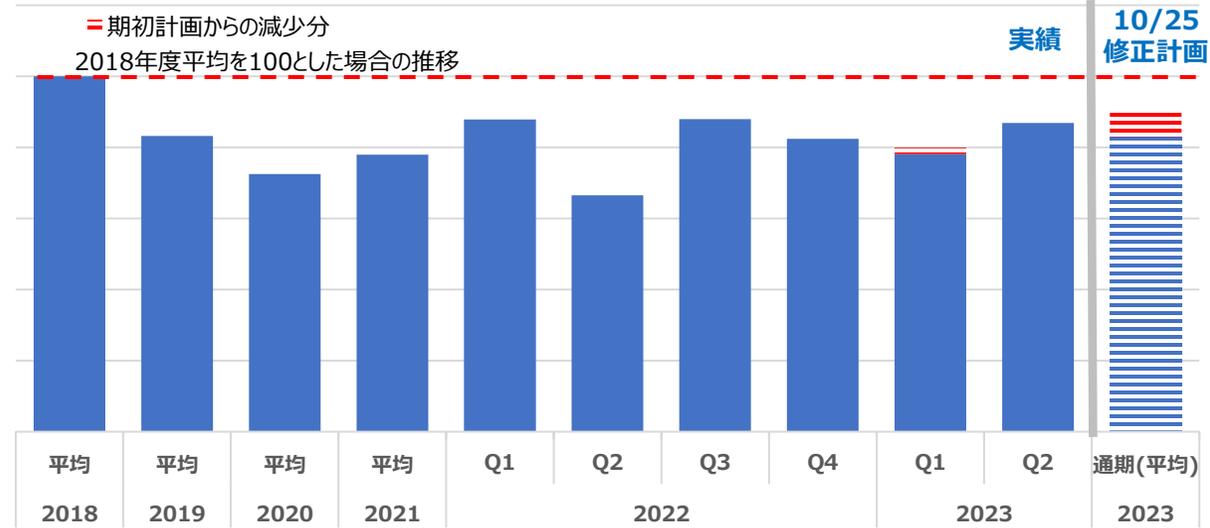


ダイカストアジア

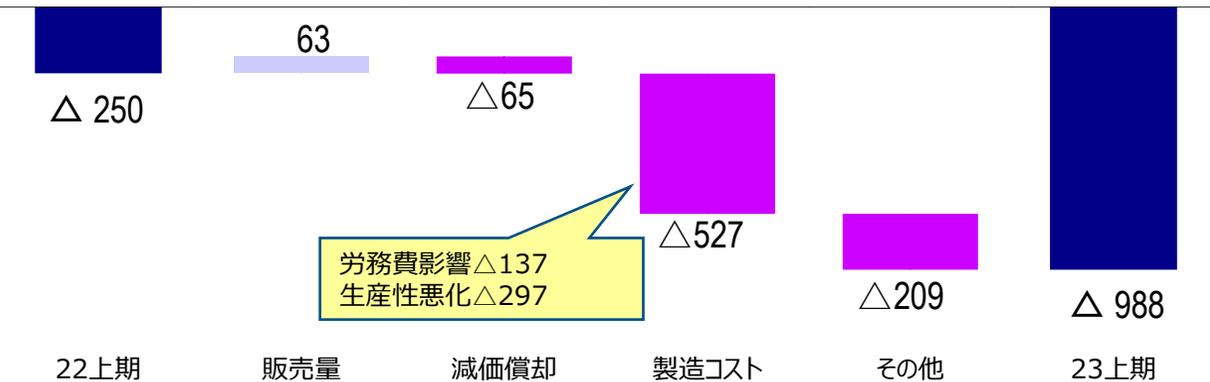
売上高/セグメント損益の推移 (単位:百万円)



売上重量の推移



セグメント損益増減要因 (単位:百万円)



《上期》

売上: 163億円 前年同期比+6億円 (+3.8%)
 損益: △9.8億円 前年同期比△7億円 (赤字増加)

《第2四半期》

売上: 85億円 前年同四半期比+13億円 (+19.0%)
 損益: △3.7億円 前年同四半期比+2億円 (赤字縮小)

- 中国において当社主要顧客の販売不振が続く一方、インド工場の増産及び円安が寄与し増収。人員の適正化による固定費圧縮を進める一方で、中国工場の受注減少及びインド工場の生産性の影響で収益悪化。直近では改善傾向

アルミニウム事業および完成品事業

(単位：百万円)

		2022年度	2023年度		対前年同期比	2023年度通期		
		上期				上期	5/18 期初計画	10/25 修正計画
			1Q	2Q				
アルミニウム 事業	売上高	3,920	1,842	1,667	3,509	△411	7,300	7,000
	セグメント 損益	152	55	33	88	△64	200	200
完成品 事業	売上高	1,794	1,679	2,005	3,684	+1,890	5,000	5,900
	セグメント 損益	111	174	313	487	+376	400	800

<アルミニウム事業>

- 売上：販売重量の減少及びアルミニウム市況下落の影響により減収。
- 損益：売上高の減少等により減益。

<完成品事業>

- 売上：主要販売先である半導体関連企業のクリーンルーム物件等の受注が増加、前期からずれ込んだ大型物件の売上計上により増収。
- 損益：売上高の増加による増益。安定的な利益を確保。

株主還元

上期業績好調により、中間配当を5円→10円に増配

電動化に向けた成長投資を行いつつ、財務体質の健全性を毀損しない範囲で連結業績に基づき利益還元を実施

自己株式の取得は順調に推移

配当と同様、当社財務戦略に沿った資本政策遂行の一環として事業環境、財務状況等を勘案して機動的に実施

1株当たり配当金	2022年度実績	2023年度期初予想	2023年度修正予想
年間配当	10	15	20
中間	5	5	10
期末	5	10	10
1株当たり純利益	△3.26	42.43	54.16
配当性向	—	35.4%	36.0%

自己株式	取得上限	10月末時点	進捗率
取得株数	900,000	541,800	60.2%
取得総額(百万円)	500	392.8	78.6%
取得期間	2023年5月19日～12月31日		



Casting Our Eyes on the Future

視線はまっすぐ未来へ

【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

株式会社アーレスティ 経営企画部 経営企画課 TEL 03-6369-8664

E-mail: ahresty_MP0_IR@ahresty.com

URL: <https://www.ahresty.co.jp>

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。